



ご挨拶

下野市農業委員会会長 高田 憲一

陽春の頃、皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

また、日頃より当委員会の活動に対しましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年9月4日の委員の改選から半年、委員相互の研鑽と友好を深めながら委員会活動の基盤を築き、委員としての任務の大切さを再認識しているところです。

改正農地法後農業委員会の果たす役割が一層強化され、人・農地プランの推進、耕作放棄地の解消、遊休農地対策など様々な課題が提起されています。

人・農地プランについては、委員は地域農業のリーダー的立場に関わり、担い手の確保や将来の地域農業について相談を受けられるように体制を備えていく必要があります。

また、耕作放棄地は、全国で40万haと農地全体の10%弱に達しており、さらに農業人口の6割を65歳以上が占めることから、今後引退する人が増えるとともに、耕作放棄地が増加することが危惧されます。

下野市においても農地面積の約1%が耕作放棄地になっています。農地は食糧供給の最大の基盤であり、国土保全のためにも絶対に守っていかねばならない大切なものであります。そのためにも発生防止と、その解消に向けての対策を講じて行くことが必要です。

我々委員は、農業者の代表として農地に係る所掌事務の適正な執行はもとより、住民の皆さんや農業者との対話を通じて関係機関と緊密な連携を取りながら各種活動に取り組み、地域農業の発展を目指し努力して参りますので、今後ともご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

農業委員研修会が開催されました

昨年11月8日栃木県教育会館大ホールにおいて平成24年度第2回農業委員研修会が、県内650名余りの委員の参加のもと開催されました。

研修会では、芳賀町農業委員会の活動事例報告が行われ、遊休農地の解消に向けた取り組みとして、梨畑の跡地をそば畑や野菜畑にした事例の説明がありました。

続いて行われた農林水産省関東農政局長・佐藤和彦氏を講師に迎えての講演では、「栃木県農業への期待」と題して、世界の農業と日本の農業の比較や、これからの農業に求められていることなどの説明があり、今後の農業を考える上で大変参考になりました。



感謝状が贈られました

感謝状の贈呈式が、2月4日に国分寺庁舎で行われました。

これは、市勢発展に功績のあった方や、市及び市の行政機関に対し寄付をした方を対象に感謝状を贈るものです。

今回は、前下野市農業委員の青柳敏明様、坂本英希様、五月女茂様を始め17の個人及び団体が該当となりました。

青柳様には石橋町時代を含め7年8ヶ月、坂本様と五月女様にはそれぞれ6年に渡り農業行政に携わり市の農業の発展にご尽力をされ、その功績により広瀬市長から感謝状が贈られました。

